

Ⅲ. 3. その他の外部資金

○奨学寄附金

<言語文化専攻>

該当なし

<言語社会専攻/日本語・日本文化専攻>

対象教員	寄付団体名	研究課題	金額	研究期間
大澤 孝	三島海雲記念財団	モンゴル国発現のバインツァガン遺跡発掘に基づく歴史・考古学的研究	1,000,000 円	R2.7.1～ R3.6.30

○共同研究

<言語文化専攻>

該当なし

<言語社会専攻/日本語・日本文化専攻>

受入教員	相手先	研究課題	金額	研究期間
永原 順子 講師	株式会社 坂本技研	学際的視点を持たせる地域連携教育研究	175,000 円	R2.10.1～ R3.9.30

○受託研究

<言語文化専攻>

該当なし

<言語社会専攻/日本語・日本文化専攻>

受入教員	相手先	研究課題	金額	研究期間
藤原 克美	セルビア共和国ベオグラード大学文学部	日本語母語話者へのセルビア語教育の研究	707,270 円	R1.10.1～ R3.9.30
渡邊 克昭	一般財団法人 日本生涯学習総合 研究所	大学英語教育における CEFR の活用－ESP と 4 技能育成の統合	1,000,000 円	R2.10.1～ R3.9.30

○受託事業研究

<言語文化専攻>

該当なし

<言語社会専攻/日本語・日本文化専攻>

該当なし

○日本学術振興会特別研究員

<言語文化専攻>

氏名	助成団体	助成名称	申請課題	助成金等
三野 貴志 DC1	日本学術振興会	平成 30 年度日本学術振興会特別研究員	There 構文の多層的ネットワークの構築 -構文文法の新たな枠組みを求めて-	200,000 円/月

<言語社会専攻/日本語・日本文化専攻>

氏名	助成団体	助成名称	申請課題	助成金等
平野 綾香 DC2	日本学術振興会	平成31年度日本学術振興会特別研究員	タイ・ミャンマー諸方言の研究	200,000 円/月
李 光曦 DC2	日本学術振興会	令和2年度日本学術振興会特別研究員	日本高等教育における母語・継承中国語学習者のアイデンティティ・言語習得の角度から	200,000 円/月
登利谷 正人 PD	日本学術振興会	令和2年度日本学術振興会特別研究員	アフガニスタン・パキスタンにおけるパシュトゥーンの社会運動と政治動態	362,000 円/月

○内地研究員

<言語文化専攻>

該当なし

<言語社会専攻/日本語・日本文化専攻>

該当なし

○私学研修員

<言語文化専攻>

該当なし

<言語社会専攻／日本語・日本文化専攻>

該当なし

○国際共同研究推進促進プログラム

<言語文化専攻>

言語と論理的思考の発達に関する研究	
研究代表者	言語文化専攻・教授 宮本 陽一
招へい研究者	Sauerland Ulrich ライプニッツ理論言語学研究所/意味論・語用論研究グループ/副研究所長
研究期間	平成30年4月1日～令和3年3月31日
研究課題の概要	本研究は、実験語用論の観点から論理的思考と選択的接続詞の依存関係ならびに、その獲得過程を明らかにする。論理的思考の発達への母語の影響を解明するために、モノリンガル（4歳から10歳）、バイリンガル、第二言語学習者、第三言語学習者による選択的接続詞の獲得過程を比較検討する。

<言語社会専攻／日本語・日本文化専攻>

アジア太平洋地域の平和と安定：包括的アプローチを目指して	
研究代表者	言語社会専攻・教授 杉田 米行
招へい研究者	シドニー大学・上級講師 Thomas Wilkins
研究期間	平成29年4月1日～令和6年3月31日
研究課題の概要	研究の全体構想は、アジア太平洋地域の平和と安定をいかにして築くかということ、歴史的知見を基礎にして探求するとともに、それを基に将来の展望を切り開くことである。そのために、本研究は、平成26年度～28年度の国際共同研究推進プログラム「アジア太平洋地域の平和と安定：国際行動規範形成のための重層的分析」の成果を発展させる。前回の研究では国際行動規範形成の必要性を解明したので、今回は制度的・国内政治的・文化的・法的経済的諸要因を構造的に取り込み、包括的アプローチの構築を目指す。そのために、まず、個別要因の分析を行い、その成果を積み上げていきたい。

医療保険制度が診療に与える影響（腫瘍学を中心として）：日本とインドの比較研究	
研究代表者	言語社会専攻・教授 杉田 米行
招へい研究者	Senior PhD. Research Scholar, Department of Liberal Arts Sravanthi Maya Senior PhD. Research Scholar, Department of Liberal Arts Shweta Kiran Chawak
研究期間	平成 30 年 4 月 1 日～令和 6 年 3 月 31 日
研究課題の概要	本研究では、医療保険制度が診療、特に診療の効果に与える影響に関して、日本とインドの比較研究をすることである。アジアの成熟した大国の代表として日本を、アジアの台頭しつつある新興国の代表としてインドを比較検討する。従来、診療の効果は国の経済力を背景とした医療テクノロジーに起因することが多いと考えられてきた。本研究の具体的な目的は、医療テクノロジーのみならず、各国の医療保険制度が診療の効果に大きな影響をおよぼしているという仮説をたて、日本とインドで比較研究をしながら、その仮説を検証することである。将来的には、中国、東南アジア等を含めたアジア全体に研究対象を拡大したいが、今回はその第一歩としての共同研究に着手する。

○国際合同会議助成

<言語文化専攻>

多言語・多文化社会のあり方に関する日独韓合同会議	
代表者	言語文化専攻・教授 山下 仁
相手機関（国名）	ソウル大学（大韓民国） ザールブリュッケン大学（ドイツ連邦共和国）
開催期間	令和 2 年 9 月 21 日～令和 2 年 9 月 25 日（コロナウイルスによる感染症拡大のため中止）
会議開催の概要	グローバル化する世界において、日本ではドイツ、韓国同様、多言語化・多文化化が進んでおり、それに伴う問題も多く生じている。本国際合同会議では、そのような問題を明らかにし、人文学の観点からその問題解決に貢献するべくそれぞれの研究の成果を発表する。すでに申請者は韓国のソウル大学に招かれ、この問題に関する講演を二度にわたって行い、そのような意味での共同研究を行って

	<p>いる。さらに、今後もこのような交流を継続し、ドイツ学術交流会（DAAD）及び韓国の学術振興会の支援を受ける計画を立てている。この共同研究によって、それぞれの国の研究者の研究の相乗効果が見込まれるばかりでなく、若い研究者にも開かれた会議を開催することによって、彼らにとっても大きな刺激になると考える。この分野では先進的なドイツやヨーロッパに関する多言語・多文化社会の問題を中心に議論しつつ、日独韓の研究者の共同研究を深化させることが本会議の意義である。</p>
--	--

<言語社会専攻／日本語・日本文化専攻>

該当なし

○英語論文の投稿支援事業

<言語文化専攻>

採 択 者	支 援 内 容	支 援 額	採 択 月
西田 理恵子 准教授	英語論文校正支援	41,600 円	令和 2 年 7 月
渡辺 貴規子 講師	英語論文校正支援	58,627 円	令和 2 年 12 月
田中 美津子 講師	英語論文のオープンアクセス支援	259,150 円	令和 2 年 12 月

<言語社会専攻／日本語・日本文化専攻>

該当なし